甲陽ファンドに理解と協力を

同窓会会長　平田　豊（22回）

波瀾に満ちた一年が過ぎて、新しい年が始まった。今年も多事多難、慌しい年となるのであろうが、経済界の見通しだけは明るいようである。バブルの後の長い調整期を経て、財界の新年初頭の会合に於いても、強気の発言が見られるようになった。国民が、ひとしく希望に満ちた暮らしが出来るような年であってほしい。

さて、わが甲陽同窓会の活動も、今年も充実したものにしたい。新たな甲陽アーカイブスの立ち上げや、漸減傾向にある年会費問題等、処理すべき問題は多くあるが、その中でも特に、今年は甲陽ファンドの基礎固めに注力致したく、同窓生各位の全面的な協力をお願いしたいのである。

前号の「甲陽だより」にてもお知らせしているが、このファンドは昨年4月に開設して以来、12月末で44名の賛同者を得、約1千万円の醵金が積み上がっている。辰馬本家酒造株式会社の辰馬章夫社長、辰馬育英会の辰馬伸彦理事長からも、このファンドの趣旨に賛同をいただき、法人並びに個人として多額の醵金を頂戴した。我々の今後の活動に多大の勇気を与えていただき感謝の念に耐えない次第である。また、賛同いただいた皆様の名前は、別掲の通りであり、今後の賛同者名についても逐次「甲陽だより」の紙上にて公表の予定である。

ご承知の通り、このファンドは甲陽同窓会がある限り永遠に続くもので、随時同窓生全員に呼びかけを行いながら、息の長い活動を続けていく予定であるが、一方、当面の目標である1億円の目途を、なるべく早くつけたいものと考える次第である。

顧みるに、わが甲陽学院は、創立以来90年近くの年輪を刻み、その間多くの人材を輩出して、今や全国有数の進学校として押しも押されもせぬ存在となっている。わが同窓会はそのことに大きな誇りを持つと共に、教育の現場で日夜ご苦労をいただいている甲陽学院の関係者各位に深甚なる敬意と感謝の念を捧げたいのである。

この奨学金ファンドは、その意味で母校に対するささやかな恩返しで、今は一隅を照らす灯火に過ぎないが、いずれは大きく燃える篝火に育ってほしいものと念願する次第である。

甲陽だより

発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 平田　豊
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木・金 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
E-mail：
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
甲陽ホームページ
http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/

ファンドにご協力下さい！

〔醵金方法〕（1）同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醵金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、

（2）三菱東京UFJ銀行芦屋支店　普通口座3998990　口座名義　甲陽学院同窓会奨学金ファンド　にお振り込み下さい。

(2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

白鹿クラシックス
Hakushika Classics
西宮市鞍掛町（札場筋・臨港線交差点）
■定休日／火曜日

レストラン＆カフェ
AM11:00～PM10:00
（ラストオーダー PM9:00）
明治時代の酒蔵を
シック＆カジュアルな和空間に。
0798-35-0001

ミュージアムショップ
AM10:00～PM7:00
蔵元ならでは、
お酒にまつわるアイテムが大充実。
0798-35-0286

酒ミュージアム
白鹿記念酒造博物館
AM10:00～PM5:00
（入館は4時30分まで）
日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承。
0798-33-0008

甲陽学院同窓会奨学金ファンドにご協力を

同窓会を中心に広く集めた基金より母校の在校生に奨学金を給付するという趣旨、および募金要領について、既に前号の「甲陽だより」にてご報告申し上げましたが、間もなく（2017年に）創立百年を迎える甲陽学院の同窓会として、かねてからの懸案でありました「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」を同窓会の皆様の絶大なご支援の下で立ち上げることができました。当学院の運営を従来から辰馬育英会に高度に依存する余りか、甲陽学院は阪神間の主要な私学の中では極めて珍しく独自の奨学金制度をもたないままに今日まで来ました（他校の状況はP.3の通りです）が、この度の新制度は辰馬育英会ならびに学校当局からも高い評価を頂いております。本制度の導入により、経済的事情により就学が困難な後輩への援助を行い、また少子化の進む中で今後とも優秀な子弟を継続的に甲陽学院に誘致する一助となればとの卒業生の願いがようやく第一歩を踏み出したところであります。当ファンドの発足初年度に当たっては「当番学年」の34回生（新制第1回生）が、旧制、新制の全卒業生を対象に積極的な募金活動を開始したところですが、貴殿にも是非ともご協力をお願いしたいと存じます。34回生の積極的な募金活動もあって、本年2月10日現在で51名の方より総額1479万円の醵金をいただきました。ご芳名は下の通りです。何卒卒業生一同の母校愛の象徴とも言える本制度の継続的発展に是非ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

醵金の方法は、(1)同封の振込用紙にファンドへの醵金の旨を明記して郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み頂く方法、(2)直接三菱東京UFJ銀行の「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」の口座にお振り込み頂く方法、の二つがあります。詳細は第1面をご覧ください。なお、勝手なお願いではありますが、個人、法人共に醵金総額の上限は、贈与税の関係もありますので年間百万円を超えない額でお願いできればと考えております。

○2006年2月10日までにファンドに醵金いただきました方のご芳名を以下に掲載いたします（敬称略）。まことにありがとうございました。

辰馬本家酒造株式会社社長		34回	奈良　節雄
辰馬　章夫		34回	鈴木　忠
学校法人辰馬育英会理事長		34回	平松　一彦
辰馬　伸彦		34回	福田　律
辰馬本家酒造株式会社		34回	水野　寛
15回	髙垣雄二郎	34回	安井　一正
19回	石井　賢治	34回	横内　昭
22回	平田　豊	34回	吉田　忠二
23回	河崎　襄二	35回	国領　薫
27回	足立　宜久	35回	塩谷　洋一
31回	鈴木　登	35回	中村　貞三
31回	成住　俊二	36回	舟越　辰緒
31回	八木　頼夫	36回	大野　進
32回	池田　泰二	40回	矢野　光男
34回	伊藤　孝	45回	小林　智夫
34回	澤田　専治	49回	新宅　英二
34回	櫻井　靖芳	50回	岩朝　央
34回	斎藤　高康	51回	辰野　久夫
34回	小林　允	56回	佐野　隆夫
34回	小島　安正	57回	白尾　誠二
34回	熊沢　一	58回	安藤　浩一
34回	梶　康弘	59回	島本　佳憲
34回	大沢　一夫	60回	高井　裕之
34回	鈴木　博信	62回	栗栖　孝一
34回	石田　修三	72回	高橋　悟朗
34回	辻野　純徳	86回	西垣　翔
34回	今井　宏一	以上総額　14,790,000円	

甲陽学院同窓会奨学金　選考・給付要領

1．奨学金は「給付」とする。
2．給付額は、奨学生一人あたり年間20万円。
3．奨学生の人数は、各学年1名の計6名を基本とする。
4．奨学生の募集は毎年4月～5月に行い、6月に審査・選考を行ったうえ、7月に年額を一括して給付する。
5．3のほかに、甲陽学院入学後に保護者の経済的事情に変動のあった者で、かつ奨学金を希望する者には、別途審査のうえ奨学生の資格を与える。その際、年度途中であってもその年度の給付額20万円を給付する。
6．中学校在学時に奨学生となった者は、原則として中学校在校中はその資格を継続するものとする。
7．高等学校在学中に奨学生となった者は、原則として高等学校在学中はその資格を継続するものとする。

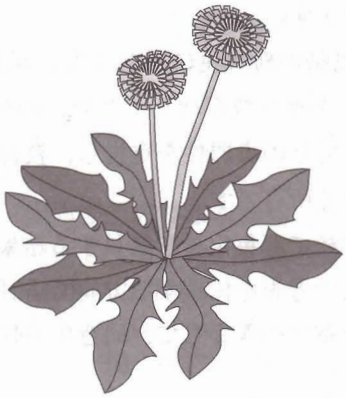
○お尋ねします○

2005年8月11日に甲陽学院同窓会奨学金ファンドの口座に「キダチュウゾウ」様からお振り込みをいただきましたが、同窓会名簿で該当の方が見当たりません。左の名簿にも掲載できずにおります。「キダチュウゾウ」様にお心当たりのある方、情報を同窓会事務局までお寄せ下さい。（事務局の電話番号等は第1面をご覧下さい。）よろしくお願いします。

資　料

兵庫県内の私立高校における奨学金制度の状況は以下の通りです。
（兵庫県私立中学高等学校連合会『ひょうごの私立高校ガイド2006』より）

学　校　名	奨　学　金　名	金額（月額）	給付・貸与
雲雀丘学園高等学校	土井奨学金	授業料免除	給付
園田学園高等学校	園田学園生本・育英会奨学金	5,000	給付
百合学院高等学校	百合学院高等学校特別減免制度	入学金	給付
関西学院高等部	関西学院高等部支給奨学金	196,000／年	給付
	関西学院高等部貸与奨学金	経済状況による	貸与
神戸女学院高等学校	神戸女学院中高部給与奨学金	20～40万／年	給付
	神戸女学院高等部貸与奨学金	納付金相当額	貸与
仁川学院高等学校	仁川学院奨学金	授業料	貸与
仁川学院中学校	仁川学院中学高等学校父母の会奨学金	授業料	貸与
武庫川女子大学附属高等学校	公江特待生	150,000／年	給付
	武庫川学院奨学生	166,800／年	給付
	育英会奨学生	100,000／年（昨年度実績）	給付
	鳴松会奨学生	200,000／年	給付
甲子園学院高等学校	甲子園学院高等学校奨学金	ランクあり	給付
夙川学院高等学校	夙川学院増谷特別奨学生	入学金・授業料	給付
	夙川学院ファミリー奨学生	入学金	給付
	夙川学院スポーツ奨学生	入学金・授業料など	給付
芦屋大学附属高等学校	芦屋学園福山奨学金	14,000 29,000	給付 貸与
甲南高等学校	甲南奨学金	200,000／年	給付
	甲南KSC奨学金	100,000／年	給付
	甲南育友会奨学金	第一期納付金	貸与
甲南女子高等学校	甲南女子学園奨学金	授業料相当額	貸与
	甲南女子高等学校奨学金	180,000／年	貸与
	甲南女子中学校・高等学校奨学金	授業料の範囲内	給付
灘高等学校	灘中・高等学校・柄川奨学生	180,000／年	給付
親和女子高等学校	親和学園中・高授業料減免制度	授業料半額	給付
神戸海星女子学院高等学校	海星母の会奨学金	学費相当額	貸与
松蔭高等学校	松蔭中・高等学校奨学金	校納金の半額	給付
	松蔭高等学校奨学金	15,000	貸与
神戸龍谷高等学校	神戸龍谷高等学校特別減免制度	入学金・授業料など	給付
神戸第一高等学校	スバルが丘学園奨学金	入学金半額	給付
神港学園神港高等学校	神港学園奨学金	入学金など	給付
神戸山手女子高等学校	神戸山手女子中学校・高等学校奨学金	25,000	貸与
	神戸山手学園中高育友会奨学金	25,000	給付
	神戸山手学園友松会奨学金	25,000	給付
	神戸山手女子高等学校奨学金	15,000	貸与
	神戸山手女子高校入学特別奨学金制度	入学金のうち420,000～100,000	給付
	神戸山手女子高校ファミリー入学奨学金制度	入学時 50,000	給付
神戸学院大学附属高等学校	神戸学院大附属高校授業減免制度	授業料半額	給付
	神戸学院大附属高等学校修学支援修学金	180,000／年	貸与
	森わさ記念育英奨学金	授業料半額	給付
	溝口奨励金	授業料半額	給付
神戸村野工業高等学校	神戸村野工業高校奨学優遇制度	入学金・授業料など	給付
	神戸村野工業PTA奨学金制度	入学金・授業料など	貸与
神戸常盤女子高等学校	常盤奨学金A	入学金・授業料	給付
	常盤奨学金B	入学金	給付
	姉妹奨学金制度	授業料など	給付
	部活動特待生制度	入学金・授業料	給付
神戸野田高等学校	神戸野田特待・奨学金制度	入学金の全額・半額・10万	給付
育英高等学校	育英高等学校奨学金	入学金・授業料など	給付
滝川高等学校	瀧川学園奨学金	15,000	貸与
須磨学園高等学校	須磨学園高等学校奨学金	入学金・授業料など	給付
神戸星城高等学校	田中記念奨学金	入学金・授業料等相当額	給付
	熊見奨学金	卒業後1年間20,000／年	給付
	熊見学園奨学金	10,000	貸与
啓明学院高等学校	啓明奨励奨学金	100,000／年	給付
神戸国際大学附属高等学校	神戸国際大学附属高校奨学金	校納額の半額	給付
三田学園高等学校	今西奨学金	授業料の半額	給付
三田松聖高等学校	三田松聖高等学校奨学生	入学金・授業料など	給付
兵庫県播磨高等学校	摺河学園奨学金	15,000	貸与
		入学金・授業料など	給付
賢明女子学院高等学校	リヴェ・スカラシップ	336,000／年	給付
淳心学院高等学校	ウェーゼル基金	6,750～27,000	給付
東洋大学附属姫路高等学校	東洋大学附属姫路高等学校給費奨学生	入学金・授業料免除	給付
日ノ本学園高等学校	日ノ本学園教育基金奨学金	20,000	給付
	日ノ本学園PTA奨学金	授業料相当額	給付
	日ノ本学園同窓会奨学金	100,000／年	給付
	日ノ本学園奨学金	20,000	貸与
日生学院第三高等学校	青田強奨学金	10,000	給付
生野学園高等学校	高星奨学金	10,000～45,000	給付
柳学園高等学校	柳学園奨学金、奨学手当	入学金・授業料	給付
	香山スカラシップ	授業料・遊学（大学）の支援	給付



学校だより

2006年度入試から

中学校の募集定員が増えます

甲陽学院中学校では、長きにわたり募集定員を165名とし、1学年3クラス制を維持してきました。しかし、昨今の中学校・高等学校を取り巻く全国的な教育環境の変化を勘案し、慎重に検討した結果、今春の入試から募集定員の変更という結論に達しました。以下に、石川義明校長が志願者に向け発表された言葉を掲載します。

甲陽学院中学校の55人3クラス制は、1クラスの人数が多すぎるということを除けば、その学年を自分の学年とする教師と生徒との結び付きの深さなど大変にすぐれた制度であります。そのため、軽々にはくずすことなく、英語・数学の授業を分割したり、一年生の体育授業に二人の教師をあてたり、その欠点を補いながら、できるだけきめこまかに対応しようとしてまいりました。その方向のさらなる発展として、来春（注：発表は2005年）から募集員を約180人として、30人台の5クラス制を導入したいと考えています。英語・数学・国語の教師はすべてひとつの学年しか持たないということ、原則として担任は持ち上がることなど、いままでの甲陽学院の基本理念を大切にしながらの少人数化を行います。各学年英語・数学・国語の教師二人制をとり、より丁寧に指導してゆきます。

甲陽学院では、時代の流れの中で将来を見据えて、当然なすべき改革をゆるやかに贅沢に繰り広げてゆきたいと考えています。

2005年10月

校長 石川 義明

この改革は年次を追って実施してまいります。また、中学校の施設も、より快適な環境を提供するため、若干の改築・増築を順次実施いたします。もちろん、在校生にはこのことで不便をかけることのないように十分配慮しながら、従来通りのクラス編成・カリキュラムを維持してまいります。

2006年度以降の新入生に対しても、現在のカリキュラムは継承する予定です。クラス数が増えるため、のべ授業時数は増加しますが、全教科に対してその専門性を重視し、教育の質の維持、さらには向上を目指していく所存です。

なお、中学校で募集定員を増員する結果、3年後の2009年度からは高等学校の入学考査を休止する方向で検討しております。

この度の改革につきまして、同窓生の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

学校だより　中学校今年の生徒会活動

中央委員長　藤木　優希

今年も生徒会では、体育祭、音楽と展覧の会（以下音展）などといった行事の設営や、その他学校に関する仕事を行いました。

体育祭では、体育祭実行委員と助け合いながら体育祭を仕上げていきました。時には学校に夜7時ごろまで残り生徒会役員に運動部会長、体育祭実行委員、先生方と体育祭の進行の仕方などを協議したりしながら準備を進めていきました。その甲斐あってか当日は好天に恵まれ、予定通りにプログラムが進み、生徒達が精一杯戦うことのできた非常に出来栄えのいい体育祭となったように思います。

音展の方でも音展実行委員と協力して音展を作り上げました。今年は後期の生徒会委員長が音展実行委員長にもなったのを始め、生徒会四役（生徒会の委員長、副委員長、書記、会計）のうち3人が音展委員と重なったので生徒会委員としての活動と音展委員としての活動の境が明白でないのですが、生徒会としては、音展当日に来校者にパキスタン地震で被災された方々へのための募金のお願いや、後日その募金の集計をしたり、音展前日に各部、各同好会の仕上がり具合の最終確認をするために校内を巡回したりしました。パキスタン地震への募金の方はおかげ様で4万円強ほど集まり、全額日本赤十字社の方に寄附いたしました。音展当日も好天に恵まれ、大きな混乱もなく生徒達が日々の努力を存分に発揮できた舞台となったのではないでしょうか。

また他には小ルームBに置かれている、壊れているイスや机の修理を依頼して修理してもらったり、毎週の週番の引継ぎ式への出席、新一年生を対象に各クラブの活動に関する説明などをしたりしました。新一年生は熱心に話を聞いてくれ、今年も例年どおり多くの部活動に参加してもらえたように思います。今後（この原稿を書いている現在から年度末までの間）は、生徒手帳に書かれている生徒会規約の中で現在の学校の状況には到底合わないもの、表記の不備で解釈しにくいものなどの改正を行ったり、クラブ予算の配分がまだ行われていないのでその配分を決定したりする予定です。

来年度からは中学のクラスが3クラスから5クラスに増え、中学の生徒会形態が大きく変化し、従来の生徒会形態での活動は今年度が最後であると予想されます。今年は体育祭での綿密な準備や音展委員と重なっての作業などで多忙な一年であったと思いますが、その重要な年でもあり非常に充実した一年であったのではないでしょうか。

学校だより　高校生徒会活動を振り返って

会　長　栗原　晃一
副会長　吉村　充弘

2004年12月の生徒会選挙で無投票当選した僕たちの任期は、1月から始まった。始業式が終わり、生徒会副会長としての自覚を新たにしていた僕のところに、思いがけず初仕事が舞い込んだ。それは、12月にインドネシア・スマトラ島のアチェ州沖で起こった地震及び津波の被災者に対する支援募金だった。生徒会役員一同は、さっそく、早期の募金実現に向け動き始めた。ただ、そこには、少なからず困難が付きまとった。初仕事であるがゆえに、担当の先生が誰であるかも、最初のうちは十分に把握できていなかったし、「許認可」の遅さにじれったさも覚えた。そんなさまざまな壁をどうにか乗り越え、始業式の10日後には募金が実現した。かなりの支援金を他の団体を通じて、被災地に送ることができ、一つ目の大仕事を終えた達成感を味わった。

その後、まもなく、新年度に向けた生徒会予算編成を行った。各クラブとの予算折衝を行ったのだが、ほとんどのクラブが増額を要求していたため、折衝は難航した。ずいぶん厳しく要求の下方修正を促したのだが、最終決定するまでには、かなりの時間を要した。

そして、僕たちの任期中に行ったもう一つの大きな仕事が、関西私学交流会への見学参加である。関西私学交流会とは、阪神地区や大阪の私立高校の生徒会執行部が一堂に会し、持ち寄った各校における諸問題を話し合う会議なのだが、僕たちの代から見学参加という形で甲陽学院も参入した。一度参加した結果、本校生徒会にとってとても有益な組織であるということがわかり、今のところ、4回の会議に参加し、6月には同交流会の仮メンバーとして、あしなが学生募金にも参加した。

この他にも、生徒会の活動として、体育祭・音楽と展覧の会などを行ったが、2大行事は各準備委員会の諸君が担当していたので、ここでは割愛する。

以上の生徒会活動を通し、もちろんほんのわずかではあるが、これから先、社会に出て生きていく際の、諸般の事務や、交渉などの進め方等を垣間見られたような気がする。また、自分の事務処理能力や統率力をすこしでも磨けたのではないかと思っている。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった方々に感謝いたします。（吉村）

会長になってから多くの貴重な体験をさせて頂きました。生徒会活動を通して培った、この経験を活かしていけるよう、幅広く積極的に活動していきたいと思います。また、会長に就任後、手探りの状態にいる中、手を差し伸べて下さった方々、快く生徒会活動に協力して下さった方々、特に松井先生と吉村君には、いろいろ衝突もありましたが本当に感謝しています。本当にありがとうございました。（栗原）

学校だより　甲陽学院同窓生講演会

高等学校　なぜ国際政治論を志したか

関西学院大学法学部教授
豊下　楢彦（44回）

2005年12月17日㈯の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、第5回の卒業生講演会を開催しました。今回は、関西学院大学法学部の豊下教授をお招きし、「なぜ国際政治論を志したか」というテーマでご講演をいただきました。

豊下氏は、甲陽学院の中学・高校をご卒業のあと、京都大学法学部に進まれ、京都大学法学部助手、京都大学法学部助教授、立命館大学法学部教授を経て、2000年より現職に就かれました。主要なご著書には『イタリア占領史序説』有斐閣、『日本占領管理体制の成立』岩波書店、『安保条約の成立』岩波新書などがあります。

氏は、甲陽在学時代に自分の進路を考えるにあたって「自分の運命を他人に左右されたくない」と強く思い、運命を左右する最大のものは戦争である、戦争について深く考えたい、との思いで、国際政治の論文などを読み漁るようになったそうです。

そして今、戦争というものが近づいてきているという危機感をもつ。アメリカのイラク戦争を主導したネオコンには「憶病なタカ派」が多い。言うことは威勢がいいが、自分は安全なところに逃げるという「憶病なタカ派」にはならないでほしい。また、世界的に偏狭なナショナリズムが高まっているように思う。抑圧された層に対して敵を設定し、指導者がその敵をやっつけて喝采を受けていくというのがポピュリズムであるが、このポピュリズムが国家間の関係に及んだとき、敵か味方かという二項対立を特色とする偏狭なナショナリズムとなる。私たちの運命を左右するのが政治であり戦争であるから、皆さんにも政治に関心をもってほしい。イラク派兵も他人事とは考えないで。最後に、国際政治の理論で道徳的不均衡という概念がある。脅威の責任が全部相手側にあるという立場に立つことだが、実際すべて相手側が悪いなどということはありえないわけで、こういう思考がナショナリズムの恐いところである。事象を単純化せず、相対化していくことを大切にしてほしい。

以上のようなお話を1時間余りにわたっていただきました。その後、生徒から多くの質問が出て、予定時間を超えているにもかかわらず、それらにも丁寧に応答していただきました。

中学校　列車設計に夢をのせて

川崎重工業株式会社
車両カンパニー技術本部長
小河原　誠（55回）

2005年11月17日㈭の午後、甲陽学院中学校講堂において、第5回卒業生講演会を開催しました。今回は、川崎重工業株式会社車両カンパニー技術本部長の小河原誠氏に列車設計にかける夢や楽しさ、また、その裏にある苦労話などを、映像を交えながらお話していただきました。なお、当日は同社勤務の大川健氏（73回生）も小河原氏のアシスタントとして参加してくださいました。

小河原氏は本校卒業後、78年に京都大学工学部精密工学科を卒業され、同年川崎重工業株式会社に入社、同時に車両事業部設計部に配属され、以後、同社で車両設計一筋に歩んで来られました。これまで新幹線・在来線を始め、六甲新交通などの公営私鉄向けや、米国メリーランド2階建て客車・ニューヨーク地下鉄R143など数多くの車両に設計担当として携わってこられました。2000年に技術総括部国内車両設計部長、04年には技術本部長に就任され、現在は、国内外すべての案件の技術統括責任者として活躍されています。

当日は、川崎重工業での車両造りの様子をビデオで紹介された後、営業運転時速360kmを目指して、試作車が開発されたばかりのJR東日本の高速新幹線E954系の話を、スクリーンに映し出された貴重なデータや写真、CGを拝見しながら伺いました。高速走行では無視できないトンネル微気圧波といわれる問題、排雪装置や障害物への取組み、非常ブレーキの斬新な工夫、乗り心地や環境への適合性の向上のための配慮など、本来は非常に難しい内容を映像によって生徒にもわかりやすく、また興味深く話して下さいました。

生徒からも多くの質問が寄せられましたが、「今まで設計した車両の中で一番印象に残るものは何ですか」という質問に対して、「新幹線もさることながら、初めてすべてを任された六甲ライナーは思い出深いものです」と答えられた小河原氏に講堂全体から大きな拍手が起こっていました。

男子校には必ずあるといっていい鉄道研究会、本校にも鉄道好きの生徒が少なからずいるものと思われます。彼らにとってはもちろん、夢をもちつつ、その夢を形あるものにすることの素晴らしさに全生徒が深い感銘を受けていました。

原稿は出来る限り400字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿（含写真）は返却いたしませんので御了承下さい。

会員だより

21回　第33回 橘会

秋晴れの暖かな平成17年11月1日（火曜日）に、第33回目の橘会をJR芦屋駅前のホテル『竹園』で開催しました。一昨年までの会場「宝仙花」は、昨年閉店したそうで、『竹園』に変更しておいてよかったと思いました。

交通至便も関係して、定刻前にほぼ全員集合しました。会場は3階グリル「きく」の椅子席、昨年申し上げたように、『竹園』の社長は、関西学院高等学校で林　信男君がクラス担任であった関係から、ロビーで、「飲み物は差し入れします」との御挨拶を承りました。御蔭で神戸牛のステーキも有りましたし、随分サービスして下さいました。開会に先立って、この4年間めでたく無事故であったことなど事務的な報告のあと乾杯、ちょうど20年ぶりという宮津雅雄君が到着、それぞれが近況報告を兼ねて歓談しました。参加者11人は昨年に続く盛況です。いつも写真係をして下さる入間田謙佶君は腰痛のため残念ながら欠席でした。今年は、樋口君が主宰していらっしゃる漢詩の結社「鶏肋吟社」刊行の、平成16年度の『鶏肋集』（墨書署名入り）を参加者全員に下さいました。御礼申し上げます。

写真は『竹園』の社長の撮影です。宮津君は先に帰られたらしく写っていません。前列左から羽間重光・井川登・一色　皓、後列筒井　潤・樋口達彦・井本幸雄・森岡甲子男・濱口博章・林　信男・比留間敏男の10名です。

来年34回目の橘会は、平成18年11月7日（火曜日）、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定しましたので、一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。

（濱口博章　記）

23回　旧桃組（桃苑会）

私等は昭和19年春の卒業です。現在に至るもクラス会をやっております。病気の為数がへり、現在22名になっております。然し逢える間に級友の顔をみたいとの諸君の要望で年2回クラス会を催しており、この秋は11月19日㈯に木曽路西宮店で再会しました。今回で第32回です。クラス会は、春は5月第3土曜日、秋は11月第3土曜日として、今までは16時30分からでしたが、今回は正午から2時間にして気候のよい時にと考えました。クラス代表は池山です。係は井尻と新海です。写真左から、芦田、池山、井尻、福永、金山、木瀬、鐘ヶ江、宮、新海です。

（新海　記）

23回　桜組クラス会

今年も元気で会えてよかったね！が合言葉となった、平成17年度の桜組クラス会は、9月20日㈫中津の三井アーバンホテル17階“プラタナス”で開催しました。（参加者10名）

例年8月下旬の同窓会会員総会に、昭和19年卒桜組代表で出席の辰馬氏から状況報告を受けた後、相互に懐かしい話に花が咲き、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

約3時間歓談し、お互い健康に留意し来年度の再会を約して散会しました。

（現在の世話役　西尾・中村）

写真は後列左から　稲田、辰馬、磯野、田中、西尾、西野
前列左から　坂井、芝原、冨田、中村

24回　橘友会

我が24回卒橘友会は、昭和59年以来一泊又は、日帰りで、毎年（それ以前は随時）開催して来たが、今年（平成17年）は卒業60周年を記念して、「錦秋の京都散策と保津川下り」を楽しむべく、11月8日～9日2日間に亘り挙行した。

先ず11月8日AM11・45JR京都駅集合、JR・トロッコ列車を乗り継ぎ亀岡より保津川下りの舟に乗る。

トロッコ列車、舟下り共に快適であったが、周囲の山々の紅葉は真っ盛り迄約10日程早いとの事で、全山紅葉とは言えず少し残念であった。その後宿舎の南禅寺前の湖月荘にての宴は例年の如く懐旧談・近況談に花が咲き、卒業後60年を経ても尚、往時在学中の儘の気持ちで互いに遠慮無く歓談出来る幸せに浸り乍ら有意義な時を過ごした。

宴の後も別室に移り尽きぬ話に深更迄時を忘れた。

翌9日は、湖月荘前の南禅寺を始め、銀閣寺、金閣寺と観覧し、京都の晩秋を満喫しJR京都駅駅ビルにて昼食を共にし来年の再会を約して解散した。

今回の参加者は松崎（東京）、宮代（横浜）、馬渕（飯塚）、高坂（岡山）、中島、馬場、森、綿谷、織部、近久、南方（阪神間）、の11名であった。　（南方　記）

24回　さくら会

12月6日、大阪梅田グランドビルの「白楽天」にて、例年通り、忘年会を兼ねて、クラス会を持ちました。珍しく何十年振りかの人や東京からも出席され、例年より多くて嬉しい限りです。出席者は、前列、左から、呉竹望、清藤知之、武内清雄、浅田昭三、後列西垣健一、小原英治、前野和郎、山根嵩、田中晃一、植田悟郎、奥井和致、鈴木康充、小林正明、以上13名です。

25回　桜組クラス会

平成17年度桜組クラス会を、平成17年10月6日㈭に、大阪北新地パーティパークで開催しました。

本年は、7名の出席でありました。当初、10名の参加予定でありましたが、病気、体調不良や飛込みの行事等で参加出来ない方があり、7名になりました。

榎本時寛さんが平成16年11月22日腹部大動脈瘤破裂に依り、富田礼記さんが平成17年1月14日肺炎と多臓器不全に依り逝去されたので、各々ご霊前にクラス会の名前でご香料をお供えし、ご冥福をお祈り申し上げた事が報告されました。

出席者の近況報告では、出席の皆さんが大変元気に過ごして居られる様子が、賑やかに披露され、大いに盛り上がり、楽しい一刻を過ごしました。

最後は、恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締めくくり、来年の再会を約束して散会しました。昨年、校歌及び応援歌のコピーの文字が、小さくて読み辛いとの苦情があったので、本年は、一文字6ミリ角に拡大した上、行間を広く取った特製コピーを作成し、好評を得ました。又、松浦さんから現在地に住み着いて約30年、本年は氏神さんの氏子総代に推挙され、秋祭の10月10日までは氏子総代としての行事が目白押しに並び、参加出来ないとか、他にも10月に行事が集中して参加出来なかった方もあったので、来年は、クラス会の開催を11月初～中旬にずらす事にしました。

今回の出席者は、河村郁夫、錦織達郎、藤本健一、宮原晃一、瑞穂光信、渡辺正雄、安藤正昭の7名でありました。　（安達　記）

35回　ミニ29B会 ― 古希に集う

若い人達が行き交う土曜日の夕刻の大阪・梅田ヨドバシビル。

1月28日、ビルの8階に在る“蒸樹庵”に、村上先生に担任いただいたB組のクラスメーツ11名がお互いに古希を祝おうと集まった。東京から山崎君が来阪したのがきっかけで、在阪のクラスメーツ、名古屋の松本君、岡山の藤田君が参加してのミニ29B会である。

ほぼ1年振りの会で、恙無く古希を迎えることができたことを慶び、併せて先生、クラスメーツの健勝を祈っての乾杯のあと、歓談に興じた。

話題は、ライブドアをはじめとするいまの世相のことから、いつの間にか中学・高校時代に遡っての想い出話に。なかにはたわいない話もあって。新幹線の時間をみはからい、再会を約して散会するまでの3時間が瞬く間に過ぎ去った感じだった。

出席者は、上掲の諸君の他は、角田、国領、塩谷、鈴木、田島、中村貞三、中村文一、間世田の諸君であった。
（塩谷　記）

38回

同窓会は、我々在学中の育英会理事長、辰馬悦蔵さん縁の白鷹禄水苑（有田君設定交渉）で、11月20日に開

催、参加者は39名。中島久、吉井良峯先生が亡くなられ、先生の御出席がなかったことが残念ですが、世話人の創意工夫で、楽しい会になりました。写真撮影、亡くなった両先生、同期生4名への黙祷後、遠来者、音川君の音頭で乾杯、スピーチは数名に絞り、懇談中心としました。その代わりに近況集（細川、尾本君編集、平野君印刷）を配布、卒業アルバムから個人写真をパワーポイント（堀口君作）で投影、話に花が咲きました。寺本君からは寄付金とお菓子、有田君からは自慢の焼酎の差し入れがあり、甘辛両党楽しみました。応援歌、中高校歌で蛮声を上げ、次回世話人に祖父江、江嵜君を選んでお開きとなりました。お土産は、A3版に拡大した中高の入学時の集合写真、開会前撮影後した写真（望月君が写真屋へ走る）で、大好評でした。　（福知　記）

追記：次回は高校卒業50周年です。奮って御参加下さい。

59回　東京忘年会

昭和53年3月、今は懐かしき甲子園校舎での最後の卒業式で巣立ったのが我々59期生。今回は12月15日、東京忘年会と称し、乾（純＝J）、柴田（良Fぇい＝F）、笠岡（＝K）の「JFKトリオ」が幹事役となり、関東在住者に関西からの出張者も加えて27名もの59期生が集合した。場所は柴田の勤務先、サイゼリヤの六本木3丁目店で、伊料理フルコースにビール、ワインを飲みつくし、一人何と二千円のコストパフォーマンス。27年ぶりの再会で当初はわからない同士も、アルコール化学反応で一気にタイムスリップ。当日は乾君がその美的センスを発揮し、2月にも都内で59期生23名が集まった際の写真と録音メッセージをもとにデジタル同窓会CDを記念品として制作し、配布した。以下は出席者から寄せられた感想の一部。「週末に子供とCDを見たが、白髪の人とかがいるので、本当に同い年か？この人は先生と違うのか？といった質問が続出。お前らも高校卒業して27年たったらこうなるんや、と言うといた。（笠岡君）」「CDは珠玉の作品。短い言葉の中にちゃぁんと個性がでてる。またの機会が楽しみです。（宮地君）」次回59期東京甲陽会に参加したい方は乾君または柴田までお知らせ下さい。それぞれのメールアドレスは、inui@mixmax.jp、shibatar@tkg.att.ne.jpです。

（柴田　記）

甲陽ＭＬランナーズ

卒業回数・年齢を超えた「甲陽学院・同窓生の交流、情報交換の場」としてのメールグループである「甲陽メーリングリスト」が立ち上がって、もう、6年。

これをキッカケにして、ランニングの同好達が集まり、その名をとり、エムエルランナーズ（略してM・run）が結成されました。会といっても、年2回の自主トレと称する宴会つき、ジョギングです。

回もかさねて、昨年12月の例会で13回を数えました。以前は、六甲越え有馬とか、おたふく山経由有馬とか、明石からフェリーで淡路とか、割と本格的でしたが、今回は趣向を変え、神戸八社めぐりとして、神戸の一宮から八宮へと、順不同ながら、ジョギング組とウォーキング組とにわかれて、観光をかねて、エムランしました。

八宮近くの西国街道惣門とか、皇紀二千何年のビルとかを見ながら、約2時間半。ちょうどゴール付近の二宮神社で両組無事合流。クワハウスにて、お風呂と宴会。楽しい、忘年会ができました。

いま現在の会員は、43回・田村進一、46回・岡田、勝村、佐藤、重田、柴田、西村公男、船戸、森、八木、吉井、49回・小路、61回・新谷、権、63回・小鯛の15名です。

詳しくは、http://koshien.kabto-yama.ac.jp/koyo/MLrunners/をご覧ください。

または参加ご希望の同窓生は、岡田（okada@aicoh.ac.jp）あてにメールをお願いします。

東北甲陽会　第3回大会

秋真っ盛りの10月29日㈯仙台駅前の仙台ホテルにて、発足以来3回目となる会合が、6名の参加で開催されました。

公私共、ご多忙の中、同窓会本部から顧問の田村眞也元先生（36回）が駆けつけて下さり、途中今野英一氏（18回）から歌の披露まで飛び出すなど、会は和やかに進行し、年齢差も忘れて懐かしい甲陽での昔話に花を咲かせ、心は完全に往年の甲陽健児に戻り、時の経つのも忘れていました。

本会は、春秋の2回開催しており、次回は平成18年3月25日を今の処予定しています。

東北6県在住・勤務者は現在判明している処27名居られます。ぜひ多くの方々の参加をお待ちすると共に、その頃もし、仙台に旅行でも計画されているならば、ぜひ飛び入り参加して下さい。大歓迎です。

又、次回が更なる盛会となります様に、該当者諸氏にも、お声かけよろしくお願い致します。

当日の出席者：今野英一（18回）小田圭昭（25回）尾山啓二（35回）林　信行（39回）青井秀夫（42回）中島　孝（66回）　（66回　中島孝　記）

東京甲陽ネットが発足　第一回交流会に登録者の約４分の１が参加

平成17年10月29日㈯、「東京甲陽ネット」の第1回交流会が東京・お茶の水駅前のレストランで開かれ、22回から81回までの卒業生56人が参加、卒業年度や世代を越えた交流のひとときを楽しみました。

「東京甲陽ネット」は、佐治信忠サントリー株式会社代表取締役（45回）を会長に、関東在住の甲陽学院卒業生がインターネットを通じて交流し、各種会合やセミナー、イベントなどで親睦を図ることを目的として、昨年発足しました。10年近く前から運営が困難になり開催されなくなった東京甲陽会に代わる東京での同窓会です。

世話人代表の水野学さん（42回）が発足までの経緯を報告したあと、芦屋から駆けつけてくださった甲陽学院同窓会・平田豊会長にご挨拶をお願いしました。

平田会長は、「東京での同窓会が開かれなくなったことを多くの本部役員が心配していました」と話され、「交流会が実現したことを心から喜んでいます」と温かいエールを送って下さって、大きな拍手を受けました。

食事と自由歓談の時間は、全学年の集まりには珍しく、終戦前後の甲陽ボーイから現役の大学生までが渾然一体となって行き来し、文字通り懐かしくも闊達で、親近感に溢れた交流が展開されました。

特に20代から30代前半の参加者は全員に紹介されたあと、「甲陽の先輩はみんな優秀であたたかく、どの世界でも活躍している。今日は一人でも多くと話をし、たくさん名刺を交換してほしい。ここで得た知遇を、人生や仕事の先輩として、あるいはよき目標としておおいに活用してもらいたい」とハッパをかけられるなど、引っ張りだこでした。

その中のひとりは後日、「行く前は不安でしたが、皆さん、気さくでとても楽しめました。いちど若い世代で集まり、次はもっと大勢で参加したいと思います」と率直な感想を寄せてくれました。

会場では甲子園の跡地に残る記念碑など色々な写真が映し出され、「甲陽学院のうた」の合唱も、セピア色の“古き時代の映像”で気分が盛り上がったためか見事なハーモニーとなって掉尾を飾りました。

次回の交流会は今年の10月末に行われますが、春から随時、各界で活躍するOBを招いて講演やセミナーなどを行う予定です。

関東の1都6県（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・栃木・群馬）在住であればインターネットを通じて登録していただくことができ、HPとMLで甲陽やOB関係の情報を入手したり、交流に参加することができます。いわば「毎日が同窓会」というわけです。（交流会の詳しい様子や、各学年会の報告もHPでどうぞ）

1月末時点で300人近くが登録していますが、首都圏在住のOBの数からすればまだ10分の1にしかすぎません。一人でも多くの方に登録していただき、楽しくもダイナミックな活動ができるようにしたいと願っています。

http://www.tokyo-koyo.net または検索エンジンで「東京甲陽ネット」と入力し、アクセスしていただければ幸いです。　（新宮　記）

【東京甲陽ネット】会長・佐治信忠（45回・サントリー株式会社代表取締役）／特別顧問・中川経治（23回・元甲陽学院教諭・元東京芸大教授）／世話人代表・水野学（42回・武蔵野市議）／世話人・新宮康彰（45回・著述業）／伊藤邦男（46回・会社役員）／下村浩（46回・会社経営）／坂本眞一（53回・会社勤務）／久保田一成（53回・会社経営）

グリー部演奏会に思う

酒井　新介（22回）

2005年8月14日午後2時「甲陽学院高等学校合唱部第四回不定期演奏会」は、300名の座席がほぼ満席の西宮市甲東ホールで開催された。

Ⅰ 高校生ステージ「日本のうた」指揮：松井義知先生

「ソーラン節」「赤とんぼ」「遥かな友に」「斎太郎節」「最上川舟歌」を、2年生11人、1年生12人で歌い上げた。アカペラ（無伴奏）男声合唱の経験が浅く、当然発声や歌唱技術に若さも見受けられたが、それを練習量でカバーし、練達の指揮に引き出されて真摯に訴える姿勢に先ず心を打たれた。

Ⅱ OBステージ「柳河風俗詩」指揮：渡辺真康（56回）

「柳河」「紺屋のおろく」「かきつばた」「梅雨の晴れ間」と続く多田武彦作曲の男声合唱組曲が、55回～75回のOB21人で演奏された。ご存知「北原白秋」の詩に「ただたけ」処女作のハーモニーが付けられた日本情緒たっぷりの名曲を、何度も手がけたであろうOB達は指揮者を含めた一体感で、力強く、楽しく歌い上げ、部厚く密度の高い和音を創りあげた。

Ⅲ 大学生ステージ　指揮：杉山恭史先生

「WhupJamboree」「Shenandoah」他の5曲を84回～86回の大学生19人が原語で演奏。合同練習は12日13日と聞いていたが、それ以上の自主練習が重ねられたと伺われるまとまりで、十分に把握された曲内容が、社会科の杉山先生のダイナミックな、そして的確な指揮によって見事に歌われた。

Ⅳ 合同ステージ「愛唱曲集」指揮：松井義知先生

「いざ起て戦人よ」「上を向いて歩こう」「秋のピエロ」「RidetheChariot」「ViveL'Amour」と最後にゆるいテンポの「甲陽学院の歌」が全員63人で演奏され、若い甲陽健児の意気たくましい歌声が堂に満ち、男声合唱特有の透明感あふれるハーモニーに酔いしれた。

今回初めて聴いた甲陽グリーであったが、平成15年兵庫県功労者表彰を受けられた松井先生が、甲陽学院に就任されたのは1971年で、愚息酒井雅弘を含む当時高校1年在学の55回生4人がこの演奏会の最年長。改めてグリー部を魅力ある今日の姿に育て上げられた先生の偉業に頭の下がる思いがした。

演奏会後のロビーには、練習の成果を出し切った満足感一杯の顔、顔、(^.^)。私はふと1976年7月杉並公会堂ロビーでの同じ光景を思い出していた。この日の京大、東大グリージョイントコンサートは、甲陽グリーの誇れる快挙だったと今も思っている。甲陽高校で指揮者の座を競っていた深田君と愚息が、このコンサートで京大、東大グリーをそれぞれ指揮したのである。私が日帰りで会場に駆けつけたのも宜なるかなとお思いでしょうか。あれから29年、「深田君」とは呼べない貫禄十分の東大大学院教授深田吉孝氏がすぐそばで談笑しておられた。

私の旧制中学時代、大好きで平均点を引き上げてくれる音楽の授業は2年まで、秋の文化祭に「兵隊さんよありがとう」を独唱したこともあったが、その後日本は暗黒の戦時色に塗りつぶされ、音楽芸術を楽しむことなど思いもよらぬ時代に突入していった。

終戦後神戸市民合唱団に入った私は、空腹と練習場の停電に悩まされながら混声合唱を始め、指揮者の大阪音大小橋潔先生に声楽の個人レッスンも受けた。大阪勤務となった昭和28年から2～3年小橋先生が指導されるABC朝日放送合唱団に誘われ、時の編成局長原清氏（5回）と契約を交わして、趣味と多少の実益を兼ねた充実した一時期を過ごした。そして今、長く続けた教会聖歌隊や大阪フィルハーモニー合唱団他を引退し、人生の終焉に向かって歩んでいる。

今回、自由と平和の恵まれた環境の中、歌う喜びを全身で表現する後輩たちの演奏に感動し、合唱へのますますの精進と甲陽グリー部の発展を切にお祈りする。

■あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成18年1月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：**終身会員H11年度**

♪卒 1 1 1	1 1 1 0 0	終

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	〃　未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、**下段に含まれる0の個数　×　1000円**が、未納の年会費となります。
同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の二つの例をご参照下さい。

♪♪卒 1 1	1 1 1 1 0	0 0 0 0 0

H10以降は未納です。
未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

♪♪♪♪♪	♪♪卒 1 1	1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H15年度まで納付しておられます。

㊟尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合せ下さい。

会 務 報 告

1 はじめに

平成17年11月25日に開催致しました理事会にての、会務の中間報告の大要と、17.4.1.から17.12.31.までの同窓会活動の概要を合わせてご報告致します。

2 理事会・議事概要

1．会務報告（会報編集委員会・会員総会運営委員会・奨学金ファンド管理委員会の活動状況報告）
2．同窓会一般会計の中間報告
3．アーカイブス運営準備部会の開設準備の経過説明とデモンストレーション
4．理事会・役員総会の議事録を、その会議の全録音テープと添付の会議資料をもって正規の議事録とすることの承認
5．個人情報の保護について
6．地域甲陽会の活動について
7．その他の事項

上記の諸議事につき、その担当責任者からの報告と説明の後、理事諸氏からの活発な質問と応答があり、それぞれ承認されました。

3 各委員会活動について

1．会報編集委員会

会報「甲陽だより」は、印刷部数が12,000部で、同窓生全員と母校の現旧教職員および在校生全員に郵送・配布しています。郵送費については、経費の節減をと色々な郵送方法を検討し実施をしています。

同窓生の皆様から会報に対するお声として、全体の予算の軽減を考えて年1回の発行とし、その内容の見直しと充実、それに伴う増ページを検討してはどうかのご意見も聞かされています。一方、同窓会と同窓生の皆様との意志疎通や交歓は年2回の会報しかない。もっと会報を重視し大切にとのお話もあります。皆様のお考え・ご意見をお伺いできれば有り難く存じます。

2．会員総会運営委員会

平成17年度の会員総会は、8月27日㈯にノボテル甲子園で、新入会員（86回生）を含め約200名が集い開催されました。

＊第一部は、阪神淡路大震災から10年をふまえて、京都大学防災研究所・所長 河田惠昭先生をお招きして、「迫り来る巨大地震の脅威とそれへの備えについて」をテーマに、スクリーンに映像を映して熱弁を披露いただきました。

＊第二部は、ご寄贈を頂きました日本酒「白鹿」とサントリーのビール・ウィスキーが、懇親の場を大いに盛り上げ懐かしい思い出を語り合う一時を共にしました。

＊ホームカミングの学年（卒業後50年と25年）は、36回生と61回生で記念品を贈呈しました。会員総会の企画・実行に当たる当番学年は56回生で、各委員の皆様には熱きご尽力を頂戴しました。

3．奨学金のファンド管理委員会

同窓会の新たな事業である「奨学金ファンド」が設立され半年が経過しました。「ファンド管理委員会」が常設委員会として昨年5月に発足をし、以後6回にわたり委員会が持たれ、「募金活動」「企画」「広報」「受給者選考」の四分科会が活動を開始しました。昨年12月末現在で、皆様のご厚志により1千万円を越える醵金が集まりました。心からの感謝を申し上げます。

（詳細については別ページに掲載しています。）

4 同窓会一般会計の中間報告

17年12月末現在の一般会計の現状を、末尾に掲載の「12月分収支集計表」により、概略のご説明を申し上げます。

＊収入の部

年会費・終身会費の納付状況は、17年度の予算額1,000万円に対して、納付実績は370万円となっています。昨年度の納付実績に比べまして非常に低調の傾向となっています。この要因の一つは、昨年度は活発な同窓会費の納付促進策をとり、一方では各理事・評議員の皆様並びに各学年の幹事の皆様に、会費納付の積極的なお願いを展開し、大変なご協力を賜りました。本年度は、その反動もあってか会費納付への動きが鈍く、それへの事務局の対応も遅ればせにならざるを得ませんでした。

事務局として、3月末を見据えて予算額を達成すべく、納付お願いの懸命の努力を傾注しております。しかし、これは事務局のみの力では達成が難しく、皆様のご理解・ご協力なくして達成が出来るものではありません。何分とも宜しくお願いを申し上げる次第です。

＊支出の部

支出の全般については、年会費・終身会費の納付状況を見据えて、無駄な支出を出来る限り抑え経費の削減を図っています。よって、本年度は収入を見やりながら経費の節減に一層の工夫と努力を傾注いたしています。

昨年12月末までの支出合計額は、予算額の979.6万円に対して、665.3万円の支出額となっています。

＊差引収支

17年度12月末現在の実際の差引収支は、収入額合計445万円と支出額合計665万円で、17年12月末までの収支のみを見れば、220万円の支出超となっています。

更に、前年度からの繰越金949万円がありますので、17年12月末現在では、翌年18年1月への繰越金は728.6

万円となり、繰越金のみを見れば、220.4万円の減少となっています。今期の3月末の期末までに、この減額幅の幅を縮小する努力を行う所存であります。

5　甲陽アーカイブス準備部会

昨年度から「甲陽アーカイブス準備部会」なるプロジェクトチームを設け、この専門家集団で継続して準備会を開催し、「甲陽アーカイブス」と「甲陽HP」の立ち上げの準備を部会で行ってきました。

現時点では、画面案等の最終稿が仕上がり、アーカイブスのデータ蓄積ファイル形式とデータからのコンバートプログラムの調整に入っております。理事会にプロジェクターを持ち込み、これらのデモンストレーションを行いました。

6　個人情報の保護について

17年4月の役員総会で、同窓会としての個人情報の保護について説明を行いご承認を得ました。

その後も同窓会が保有する個人情報については、万全の注意をもって、その秘密保護の体制の確立に努めています。今後とも、継続的に保護体制の見直しを行う体制を構築する努力を致します。

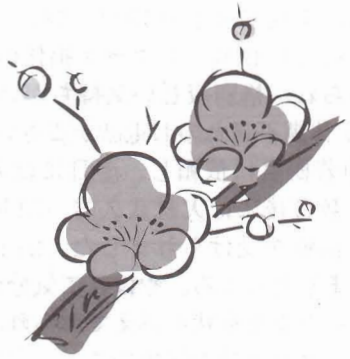
7　地域甲陽会の活動について

昨年度の「東北甲陽会」の発足に続いて、継続開催が困難になった「東京甲陽会」を引き継ぎ、これを新しく発展させる形で「東京甲陽ネット」が新たに発足することになりました。

昨年の10月28日に、新しいシステムによる運営にて、第1回の交流会が60名近くの参加者を得て開催されました。今後の飛躍・発展を大いに期待しています。

(別ページに「東京甲陽ネット」の詳細を掲載しています。)

［文責・事務局］



●平成17年度　12月分収支集計表●

［収入の部］

科目	12月分	累計4-12月分	予算額
会費	165,000	3,704,000	10,000,000
※年会費	51,000	1,303,000	2,000,000
※終身会費	89,000	1,826,000	3,000,000
※新卒入会金	—	—	600,000
※新卒年会費	—	—	1,400,000
※新卒終身会費	25,000	575,000	3,000,000
会報広告料	0	20,000	60,000
総会会費収入	0	656,000	700,000
利子収入	0	1,317	20,000
雑収入	4,500	22,500	0
寄付金	1,500	46,500	0
収入合計	171,000	4,450,317	10,780,000
基本金解約	0	0	0
繰越金	0	9,490,002	9,490,002
合計	171,000	13,940,319	20,270,002

［支出の部］

科目	12月分	累計4-12月分	予算額
人件費	309,840	1,622,600	2,116,000
※月手当	128,000	1,152,000	1,536,000
※夏冬手当	160,000	260,000	300,000
※通勤費	21,840	210,600	280,000
交通費	0	77,380	200,000
需要費	108,914	548,203	600,000
※通信費	10,584	268,331	500,000
※事務用消耗品費	4,355	47,318	80,000
※備品費	93,975	232,554	20,000
会議費	152,019	2,270,756	3,000,000
※会員総会費	0	1574,609	1,700,000
※役員総会費	0	244,794	250,000
※理事会費	132,174	172,581	250,000
※委員会費	19,845	278,772	600,000
※懇談会費	0	0	200,000
事業費	60,000	1,907,857	3,540,000
※甲陽だより	0	433,387	1,000,000
※郵送料	0	787,878	1,500,000
※振替用紙代	0	69,195	120,000
※封筒代	0	57,960	120,000
※記念品代	0	439,437	600,000
※母校後援費	60,000	120,000	200,000
雑費	22,715	227,013	340,000
※校内志	20,000	40,000	40,000
※慶弔その他	0	107,068	100,000
※振替料	1,770	50,440	100,000
※その他雑経費	945	29,505	100,000
支出合計	653,488	6,653,809	9,796,000
特別積立金繰入	0	0	97,000
予備費	0	0	10,377,002
支出総計	635,488	6,653,809	20,270,002
収入総計	—	13,940,319	—
支出総計	—	6,653,809	—
翌月繰越金	—	7,286,510	—

◎平成17年12月末日現在　現預金残高明細

＊三井住友銀行(普通預金)	224,182円
＊郵便局(普通預金)	313,703円
＊　〃　(振替通知票)	5,352,360円
＊三菱信託銀行(普通預金)	1,273,636円
＊手持現金	122,629円
合計	7,286,510円

◎平成17年度12月分収入件数の合計と累計

科目	件数	累計
寄付金	1件	4件
年会費	17件	624件
終身会費	5件	86件
新卒終身会費	1件	23件
広告費	0件	1件
総会会費	0件	119件
雑収入	1件	5件

(単位：円)

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	33回	10,000	65回	25,500
2回	10,000	34回	10,000	66回	26,000
3回	10,000	35回	10,500	67回	26,500
4回	10,000	36回	11,000	68回	27,000
5回	10,000	37回	11,500	69回	27,500
6回	10,000	38回	12,000	70回	28,000
7回	10,000	39回	12,500	71回	28,500
8回	10,000	40回	13,000	72回	29,000
9回	10,000	41回	13,500	73回	29,500
10回	10,000	42回	14,000	74回	30,000
11回	10,000	43回	14,500	75回	30,000
12回	10,000	44回	15,000	76回	30,000
13回	10,000	45回	15,500	77回	30,000
14回	10,000	46回	16,000	78回	30,000
15回	10,000	47回	16,500	79回	30,000
16回	10,000	48回	17,000	80回	30,000
17回	10,000	49回	17,500	81回	30,000
18回	10,000	50回	18,000	82回	30,000
19回	10,000	51回	18,500	83回	29,000
20回	10,000	52回	19,000	84回	28,000
21回	10,000	53回	19,500	85回	27,000
22回	10,000	54回	20,000	86回	26,000
23回	10,000	55回	20,500	87回	25,000
24回	10,000	56回	21,000	高商・1	10,000
25回	10,000	57回	21,500	高商・2	10,000
26回	10,000	58回	22,000	高商・3	10,000
27回	10,000	59回	22,500	高商・4	10,000
28回	10,000	60回	23,000	機械・1	10,000
29回	10,000	61回	23,500	機械・2	10,000
30回	10,000	62回	24,000	造船・1	10,000
31回	10,000	63回	24,500	造船・2	10,000
32回	10,000	64回	25,000	工業・1	10,000

※81～87回は前納年会費以外に上記の金額となります。　(単位：円)

吉井良峯先生逝去

母校で長くご教鞭をとられた吉井良峯先生が、昨年9月13日に逝去されました。謹んでご報告いたします。吉井先生は、昭和26年から平成4年まで41年間、母校で国語の授業を担当されました。

吉井良峯先生を偲んで

河原　啓（49回）

吉井先生は、平成17年9月13日、78歳の生涯を終えられました。私たち49回生のクラス担任の先生方は、4人とも亡くなられ、格別寂しい気持ちがいたしました。7月12日夜に、体調不良とのお電話がございましたので、49回生の山中若樹君に依頼し、翌日には入院していただきました。数日後には大村武久君（51回）にバトンタッチされ、治療を受けられました。21日の午後にお見舞いに伺いましたところ、やはりご気分がお悪いようで、目をつぶったまま症状を訴えておられ、その中におかれましても、クラス会の幹事のこと、自宅の点検工事のことなど、気にされておられ、几帳面なご性格の一面を拝見いたしました。しかし、翌週には意識を消失され、二度とお話をさせていただくことはできませんでした。その後、さらに治療を受けられましたが、薬石効なく、残念ながらお亡くなりになりました。

私は、中学、高校の6年間、担任をしていただき、現代国語はもちろん古文、漢文を詳細にお教えいただきました。甲陽に入学当時、先生は35歳、いつも溌剌とした表情で、足早に教室に入って来られ、すばらしい字を黒板一杯に書かれながら、迫力のあるご講義をされていたことを思い出します。気配りをされる優しい先生でしたが、大変厳しい面ももっておられ、時には怒られたことも思い出します。卒業後は、49回生の新年会にも毎回ご出席を賜り、昔と変わらず、力のこもったお言葉でご挨拶をいただき、我々も励まされたものです。また、山中君、難波君が49回生のゴルフコンペを始めるに際して、吉井杯をお願いに伺いましたところ、気持ちよく提供を下さったというお話を伺い、感激いたしました。野球部の監督もされ、野球好きでもありました。また、先生は旅行がお好きで退職後もお元気にあちこち旅行され、とくにお一人でナイアガラの滝など米国東海岸の観光に行ってこられたことを伺った時には、驚いた記憶があります。ご本人はまだまだ旅行をされるおつもりで準備をされていたと伺い、また私たちも新年会にはまだまだご出席いただきたいと思っておりましたので、早過ぎる先生のご逝去に残念な気持ちで一杯です。

お葬式最後の奥様のご挨拶で、「甲陽とともに生きた40年間、教え子の方たちに、良いことがあると、我がことのように喜び、何日も話題にしていました」というお話を伺い、思わず涙がこぼれました。先生の教えは、私たちの人生にとりまして、大きな土台となっております。深謝申し上げますとともに吉井良峯先生のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

訃報

（平成18年1月31日現在）

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

上田　健吉氏	（7回）	03年11月30日
浅堀　晋吾氏	（10回）	05年8月31日
古川　五郎氏	（11回）	05年5月4日
原田　暎一氏	（12回）	05年9月12日
瓢野　隆弘氏	（15回）	05年5月23日
藤本　和知氏	（16回）	01年8月5日
村田　実氏	（17回）	05年7月14日
庄田耕次郎氏	（18回）	05年7月15日
吉井　良隆氏	（18回）	05年9月25日
横田　正隆氏	（19回）	05年2月28日
吉田　一夫氏	（19回）	05年3月8日
木島久治郎氏	（20回）	02年2月10日
村井　三郎氏	（20回）	05年5月4日
木村　正年氏	（22回）	06年1月5日
徳弘　敦氏	（23回）	05年11月4日
西田　育郎氏	（23回）	04年12月16日
田辺　誠一氏	（23回）	04年10月27日
吉井　良峯氏	（23回）	05年9月13日
宮本幸次朗氏	（24回）	05年9月13日
若原　隆次氏	（24回）	04年4月23日
岩井　洸氏	（25回）	04年7月4日
寺田　晃氏	（25回）	05年11月19日
永井　嘉郎氏	（25回）	05年4月22日
芝淵　荘夫氏	（29回）	05年10月
遠藤　勝彦氏	（31回）	05年7月18日
長崎　功祐氏	（31回）	05年10月6日
前田　保信氏	（32回）	05年5月
三好　康夫氏	（33回）	04年4月6日
池田　治二氏	（33回）	
勝部　英夫氏	（34回）	04年11月19日
播間　勇氏	（38回）	04年12月26日
奥村　俊二氏	（43回）	05年3月4日
鈴木　茂人氏	（48回）	05年11月11日
須並　和宣氏	（63回）	05年11月
小菅　和夫氏	（高商1）	05年6月20日
奥村　益夫氏	（高商2）	04年10月27日
平山米嘉津氏	（高商3）	05年8月15日
古谷　宏氏	（機械1）	05年6月22日
前野　昭氏	（機械2）	05年1月6日
西岡　良博氏	（造船1）	05年2月4日
水谷　義輝氏	（造船1）	03年3月14日

第8回 リレー随筆

混沌そして再生・飛躍 ―甲陽と私―

鈴木　登（31回）

1945年（昭和20年）8月15日太平洋戦争は、日本の敗戦で終結した。その前年に入学した29・31回卒の私達は、全員夫々が学徒動員されて働いていた職場でその日を迎えた。2年生になった途端に動員された私達は、徴兵によって労働者不足になった生産現場をカバーするために、臨時工員として工場に送りこまれたのである。1学年5クラス中、4クラスの生徒は阪神電車の車両工場で、1クラスは、甲子園球場内の魚雷運搬用台車を造る軍需工場で働いた。私は後者の工場で、仕上げ担当班長をしていた。

魚雷運搬車は、飛行機に装着する魚雷を倉庫から飛行機まで運ぶもので、直接戦闘に使う武器・火器ではなかったが、戦争末期には軍需工場ですら働き盛りの労働力が極端に不足していたのである。朝鮮半島から強制的に連れてこられた青少年、それに13・14才の非熟練にわか工員が兵器を作るものだから、後になって判ったことだが、日米の総合国力差は歴然で、戦いに勝てる筈もなかった。

＊　＊　＊

しかし、やんちゃ盛りの悪童は、充分な食べ物もない時でも、その年代特有の「わるさ」をしてきた。私達のクラス担任教師は、かの有名な「天文」こと北村先生（7回）であった。工場の食堂で、どんぶりに盛られた先生のご飯（勿論、銀しゃりではなかった）に、活字にするのもはばかられる「ふりかけ」をして、先生が食べるのをにやにやして眺めた。（これ以外にも卒業するまで、数々の悪ふざけを仕掛けたが、先生はいつも超然として怒ることもなく、ニヤリと笑って見逃してくれる大人であった。）

工場の倉庫では近くの学校から、同年代の女子学生が動員され働いていた。青春時代の入り口にいた悪がきどもが、女子学生に罪のないいたずらをしたところ、北村先生は私達を一堂に集め、女というものは、「外面如菩薩　内心如夜叉」であり、不用意に手を出すと「千尋の奈落」に落ち込むという一席をぶった。これは今も語り草になっており、同期の会合があると畏友・成住兄はこの台詞を暗誦して往時を想い出させてくれる。

日本人として永久に忘れるべきでない、広島・長崎への原爆投下が決定的な「とどめ」になり、戦争は終わった。

＊　＊　＊

学校に戻ると、立派な柔剣道場等の木造建造物は、ことごとく焼夷弾で灰になっていた。美しかった藤棚も見られる状態ではなかった。当時の建物としては最高に贅沢な校舎は、びくともしていなかったが、ガラス窓は壊滅、授業が始まっても新聞紙・ベニヤ板で風雨を凌ぐ他なかった。こうした劣悪な環境の中で1945年（昭和20年）秋、復学の日が始まった。しかも常に空腹であった。

腹ペコのため、午前中の1時限／2時限の短い休憩時間に、弁当を食べる仲間も多かった。それでも「こづかいさん（用務員）」に気脈を通じて、薬缶で沸かせた茶を運んでもらって弁当をがつがつかきこみ、次の授業を待った。

煙草を密かに吸う生徒もいた。学校は喫煙にはうるさく、よく抜き打ち検査があった。煙草をうまく隠しても、ポケットのごみから煙草所持者は簡単に見つかり、職員室に呼び出されたり、授業時間中立ちん坊の罰を受けたりした。しかし学級崩壊のようなことは、全く起きなかった。時々物がなくなることもあったが、いやな犯罪などもなく、「いじめ」もあったがターゲットはいじめられ易い仲間に限られ、悪童の悪ふざけの域を出なかったので、今のような陰湿な「いじめ」の記憶はない。

グラウンドの一角にあった食堂・特別教室（物理実験室等）のある校舎別棟は、進駐軍の小部隊宿舎として接収されていた。グラウンドでは黒人兵が、時折アメフトのボールを楽しそうに投げ合っていたが、珍しさもあり飽きずに眺め、遠投する距離に驚きもした。戦後初めてしゃべった英語“Give me a chewing gum.”と言うと、あのWrigley Gumをくれた。美しい包装のチューインガムの香りと甘さが今も思い出される。

勉強の方は、およそ意欲的に取り組む雰囲気ではなかった。占領政策の基本である「軍国主義の徹底的排除」「自由・民主主義日本の構築」は、昨日までの天皇制中心の軍国主義的な「一億一心」「鬼畜米英」のスローガンの対極にあるもので、少年の心にとまどいもあった。しかし戦雲が去り平和な時代が来たこと、自由になったことが、理屈抜きに若者の心にエネルギーを与えたことは間違いない。勉学には励まなかったが、勝手に同好の士が集まりソフトボールのクラブ活動を始め、その年には全国制覇した女子校に試合を挑み激闘の末、3：2で辛勝したこともあった。この試合の後に、微笑ましいロマンも生まれたと聞いている。

遠足が学校行事にないのに抗議し、授業をボイコットして紅葉見学のため梅田駅に集合。駆けつけた先生の泣き落としに、已むなく学園に戻った事件もあった。

＊　＊　＊

戦後3年を経た1948年（昭和23年）学制改革で、4年修了した私達に旧制高校・大学予科受験の最後のチャンスがめぐってきた。まともな準備を全然していなかったのに旧制浪速高校を受けた私は、それほど難問でもなかった試験に見事失敗した。

こうして新制の甲陽高校2年生に進んだ私達は、桜・桃・梅の3クラスに編成され、それから2年間の高校生活を甲子園の学び舎で過ごした。入学時、桜・桃・梅・李・橘の5組が、疎開、戦災による離散と中学4年で学窓を巣立ったり進学もあったため、3クラスの生徒合計は100人に満たなかった。

少人数学年の所為か、はたまた時代環境のなせるわざか、「甲陽学院同窓会第29・31回同窓生」は、強い連帯感で結ばれているように思われる。平和で豊かな時代に

淡々と学園生活を送るより、空腹でも活力を失わず悪童であったことが、却って今の団結になっているのかも知れない。先年までご壮健で長寿であった恩師故永井雄一先生は、この学年のOBの団結を賞讃し同期会には必ず足を運ばれた。

施設が戦禍を受けたこと、時代環境が芳しくなかったこと、学習意欲が低下していたこと等逆境にあったにもかかわらず、甲陽学院は戦後、個性豊かな優秀な教師陣に恵まれた。歴史、英語を始め実力ある少壮気鋭の研究者を甲子園に迎えられたのは、学校経営者の教育に対する卓越した熱意と経営力があったためと思う。唯物史観のイデオロギーはさておき、若い先生方の熱意溢れる教鞭は、少年たちに大きな刺激を与えたことは間違いない。その刺激が、後に学者・研究者の道を選ぶ生徒をつくったのである。

また、英語の授業中“Chairman”を「チャーリーマン」と読んで、クラス全員が爆笑し、それ以来「チャーリーマン」がニックネームとして定着した悪がき仲間の有田兄が、同期会を纏める永久幹事として、達意の名文を駆使して同期の仲間に檄を飛ばしている。更に同窓会の副会長として頑張っており、同期生全員が彼を応援している。

甲陽中学校は、もともと軍靴の足音が高くなった時代でも、最後までゲートルを着用しなかったリベラルな校風の伝統があった。戦後平和で自由な時代でも、心は青春の「疾風怒涛期」(die Sturms-und Drangperiode)、取り巻く環境も「疾風怒涛」の混沌からの再出発であった。

そのような時期・時代に私達は甲陽で過ごし悪童振りを発揮したため、それが今日の紐帯になっていることも事実である。一言で言えば、「甲陽」は有難い学校であった。そこでまた得難い生涯の友も得た。

＊　＊　＊

社会に出て、企業の一駒になって激務を全うした友、教育界で次代の育成に燃焼した友、家業に精励する友、僧籍にある友等、その歩んだ道はさまざまであったが、戦後日本の復興・成長・発展の流れの中で、甲陽健児はその家族と協力して、いささかなりともそれなりの社会的貢献をしてきた。一方で、学友の約4分の1は世を去り、語り合えないのは淋しいことである。

最近2・3年に1度程度、同期会が開かれる。出席人数は少しずつ減少しているのも自然の流れと思う。集まった時、名曲「ああ青春の血は燃えて…」(山田在夫作詞　信時潔作曲)を高らかに歌う途端に、「血が燃える」。この校歌は私達を酔わせる麻薬でもある。

青春時代を共有した私達は、今や次の時代のことを真剣に考えるべき時期に来ていると思う。その時「教育」ほど重要なことはないこと、まさに「教育は国家百年の計」であることに思い至る。人材こそが、国の宝であり国の命運を左右すると言っても過言ではない。志高き甲陽の後輩が中心になって尽力し、昨年「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」が発足した。甲陽学院が、永久に人材を世界に対し輩出できるよう、私達もできる限り協力すべきではなかろうか。

今年も学友集う機会あれば、「教育」について議論し、校歌を激唱して「青春の血」を燃やしたいと思っている。

告　知　板

☆ご注意！　住所・電話番号の問い合わせ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆新卒者の終身会費制度☆

今年高校を卒業した87回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、別途振込用紙同封の文書にてご案内するとおりです。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.13の表をご覧下さい。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集☆

＊次号・第74号は、7月下旬頃に発行を予定しています。

＊「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のＯＢ会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

＊原稿の締切日は、6月10日です。

☆「ノボテル甲子園」の優待券☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15％割引」「レストラン＆バー10％割引」の優待券を発行していただいています。2007年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。